

いわき地域環境科学会会報



ふいーるど

FIELD No.132

< 目 次 >

【会長挨拶】

- ★ 平成31年の漠然とした不安 1

【行事案内】

- ★ 第30回発表会 2

【報告】

- ★ 第22回子供環境研究発表会 3
★ 第15回いわき子ども環境賞コンクール表彰式 5
★ 平成30年度第2回幹事会報告 6
★ 自然エネルギー研究会 6
★ NPO法人いわき環境研究室 8

【会員の動きから】

- ★ 会員の活躍 11

【事務局から】

- ★ 平成30年11月～12月事務局会議報告 11

【会長挨拶】

平成31年の漠然とした不安

諸橋健一

昨年は、いわき地域環境科学会創立30年の記念すべき年でした。「講演会」、本会初めての本「EQUAL BOOKS」の発行、会員が選んだ「いわきの環境科学遺産」の発表など記念事業を実施してまいりました。皆様のご協力、ご支援に深く感謝申し上げます。

この30年を振り返ってみますと、創立時の昭和63年は、昭和から平成へと時代が移るときでした。今思うと、いわき地域が公害から環境へと転換する過渡期にあったような気がします。皆さんにとっての平成の年号と共に歩んできた30年はどうだったでしょうか。この平成の時代も、今年の4月30日で終りを迎えます。

会報、会誌、会本をみますと、会員の環境に対する関心は、地球温暖化、自然エネルギーなどに向いているようです。いわき地域の環境については、特に問題はないようにみえます。しかし、漠然とした不安は残ります。例えば自然エネルギーについて。風力発電、太陽光発電施設を造ること、これは、大変結構なことと思います。しかし、地球環境への負荷が少ないとされる施設が地球環境に影響を及ぼしては、本末転倒もいいところ。現に、いわき市某所で太陽光発電施設の敷地の崩壊、土砂崩れが発生しています。いくら、再生可能エネルギーを名目にしても施設の建設などには、自然環境の改変がつきものです。今の不安は、適正な対応がなければ、将来必ず現実のものとなってきます。

もう一つの漠然とした不安。それは、本会についてです。若い世代、現役世代の会員が少なくなってきたことです。若い世代の会員を増やせばいい。口で言うのは易しいけれど、行うは難し。一朝一夕に成せることではありません。そのためには、本会の体制、事業のあり方を大きく変え、本会を若者に魅力あるものにする必要があります。

本会の目的は、環境に関する情報の交換を通して会員の学識の向上を図り、環境の質の向上を目指すというものです。なによりも環境情報と知識の共有がなければなりません。情報とは、もともと「敵情報」のこと。敵は、私たち身のまわりすべてのこと、つまり環境です。

情報は持っているだけでは役に立ちません。情報は使われてこそ生きてくるもの。情報を共有する協力体制が必要です。そのために、「ふいーど」「イクオール」「イクオールブックス」があるのです。会報、会誌、会本などで情報を表現することは、それを参考にしたり、引用したりして、さらに新しい価値を生み出すことに繋がります。環境は身の回りすべてのこと。広い視野でみないといけません。視野を広げていって、いろいろな分野のことを考えていくうちに突然繋がってくるものなのです。

商業の極意は「今だけ」「ここだけ」「あなただけ」だそうです。情報提供のあり方も「今だけ」「環境科学会だけ」「会員だけ」という仕組みにしたらどうでしょうか。

本会創立 30 年を契機に、本会を若い世代にとってわかりやすい会にしたいと考えます。

【行事案内】 第 30 回発表会 開催のご案内

当会恒例の発表会を下記の内容で開催します。

今回も自由テーマと設定テーマに分けた発表会となりますが、設定テーマは当会の創立 30 周年を記念して去る平成 30 年 10 月に発行されました「いわきの環境科学遺産—いわき地域の環境・魅力再発見—」に掲載された「環境科学遺産」をご推薦いただいた方々に、それぞれの推薦遺産について解説をしていただきます。自由テーマについてはこれまで同様に、いわき地域の環境に関する調査や研究などについての内容をご発表いただきます。

会員の皆様をはじめ、多くの皆様のご来場をお待ちしております。

記

1. 日時 平成 31 年 1 月 19 日 (土) 13:30~17:00(予定)

2. 場所 パルシステム福島
「みんなの交流館」
いわき市常磐西郷町落合 278
(TEL: 0246-43-1555)

※右図参照



3. 内容
開会 (13:30) 会長挨拶 / 進行説明
自由テーマによる発表 (3件)
・発表の詳細については一部調整中です。

休憩

設定テーマによる発表 ※テーマ: 「いわきの環境科学遺産」

- ・大畑海岸海食崖 江尻陽三郎・富田明雄 (いわき地域環境科学会 会員)
- ・萱手の堤 江尻陽三郎 (いわき地域環境科学会 会員)
- ・八茎鉦山周辺 富田明雄 (いわき地域環境科学会 会員)
- ・岩出の郷, 三崎前海岸, 湯ノ岳, 芝山, 三森溪谷、
諸橋健一 (いわき地域環境科学会 会員)
- ・V字谷と植物群落 吉岡榮一 (いわき地域環境科学会 会員)

懇親会 (16:00)

閉会 (17:00)

4. 問い合わせ先

いわき地域環境科学会事務局 (発表会担当: 山田)

〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾 30 福島工業高等専門学校電気電子システム工学科

TEL: 0246-46-0800, FAX: 0246-46-0807, E-mail: yamada@fukushima-nct.ac.jp

【報告】 30周年記念事業 第22回子供環境研究発表会

平成30年11月25日(日)、福島高専において「第22回子供環境研究発表会」を開催しました。当日の発表作品は、いわきら・ら・ミュウにて9月に開催された「福島県小学生理科作品展いわき地区展」に出展された中から当会が選出したものです。

発表会は、最初に諸橋健一会長の挨拶があり、その後、発表者が1人ずつ自由研究をもとに作成したポスターの前で研究の内容を5分程度で紹介し、続いて来場者がポスターの前に移動して発表者と質疑応答を行いました。子供たちは各自の発表を立派に行い、来場者からの質問にも真剣に答えていました。今回の発表会にも多くの方々にご来場いただき、活気のある発表会となりました。

今回は、当会の創立30周年記念事業の1つとして、児童の皆さんの発表の後にゲストをお招きしての講話を企画しました。講話をしてくださったのは、福島大学共生システム理工学類・研究員の大平創さんです。大平さんは、小学生の頃にこの子供環境研究発表会での発表をされたOBにあたる方で、現在は研究員として生物に関するご研究をなさっている現役の研究

者です。小学生の頃の研究も現在の研究のベースとなっているということで、小学生の「自由研究」と研究者が行う「研究」で共通していることと違うことについて、小学生にも分かりやすく説明していただきました。最後に諸橋会長から発表者全員に賞状と副賞が授与され、集合写真を撮って終了となりました。

発表会の開催にあたり、発表された児童の皆さん、ご指導いただいた小学校の先生方ならびに保護者の皆様に御礼申し上げますとともに、児童の皆さんの更なる研究の発展を祈念いたします。今回の発表内容は以下の通りです。

「いわき七浜のふしぎ」	高久小学校 3年	井上 怜亮 さん
「だんご虫のひみつ発見」	泉小学校 3年	佐藤 一輝 さん
「電気と発電について」	豊間小学校 4年	望月 蓮 さん
「アサヒアナハゼの研究」	泉小学校 4年	大和田 夏海さん
「光パワーで育て植物」	平第六小学校 5年	鈴木 莉乃 さん
「クワガタの走光性について」	好間第二小学校 5年	佐藤 聡音 さん
「かいわれ大根の成長競争5」	小名浜東小学校 5年	小松 瑞生 さん
「いわきの海とプラスチックゴミ」	小名浜西小学校 5年	菅 竜馬 さん
「浸透のふしぎにせまる」	中央台東小学校 6年	薄井 堇 さん
「塩分と植物について」	豊間小学校 6年	有働 峻介 さん
「伸びろ緑のカーテンパート3」	御厩小学校 6年	立花 里紗 さん
「鮫川が教えてくれたこと」	植田小学校 6年	鈴木 心彩 さん



発表のようす（上）、大平OBの講話（左下）、発表者の集合写真（右下）



【報告】 第15回いわき子ども環境賞コンクール表彰式

当会の30周年記念事業の一環として、いわき市の共催、いわき市教育委員会の後援で当会が主催した、第15回「いわき子ども環境賞コンクール」表彰式は、子供研究発表会と同日の11月25日(日)午後を受賞関係者など60名ほどが参加して福島高専で執り行われました。

環境保全をテーマにした標語は、今回も小学生の部と中学生の部それぞれで募集が行われ、市内12の小中学校から312名、458作品の応募がありました。審査の結果、以下の作品が受賞し、諸橋会長から賞状と記念品が授与されました。最優秀賞作品は「広報いわき」12月号に掲載されたほか、入賞作品は市のホームページと市役所ロビーで披露されました。受賞作品は以下の通りです。

小学生部門

最優秀賞

「ごみひろい あせといっしょに ひかるまち」 宮小学校 1年 渡辺 明仁

優秀賞 (3作品)

「ごみひろい いいねがいっぱい うれしいね」 中央台東小学校 2年 工藤 そら

「のこそうよ いわきのみどり すんだ海」 宮小学校 2年 坪井 大河

「ぼくも楽 ゴミの軽い日 うれしいな」 泉北小学校 4年 吉田 朗真

佳作 (5作品)

「エコライフ 続けてストップ 温暖化」 中央台東小学校 6年 三友 誠大

「だいすきな うみとみどりと そらのいろ」 中央台東小学校 1年 新妻 紡

「ふやそうよ 地域のきれい みんなの笑顔」 泉北小学校 5年 横山 心絆

「エコバッグ いつもいっしょに お買い物」 高坂小学校 2年 増子 凱才

「ひと部屋で 過ごす憩いの 夕食後」 平第一小学校 6年 渡邊 絢心

中学生部門

最優秀賞

「七浜の 麗し水辺 いつまでも」 磐崎中学校 3年 柳澤 諄

優秀賞 (3作品)

「「省エネ」は 一人ひとりの 意識力」 草野中学校 3年 吉田 敦哉

「これからの 子孫へつなぐ エコリレー」 藤間中学校 3年 馬場 綾音

「便利さを 見つめ直そう 未来のために」 藤間中学校 1年 吉田 こはる

佳作 (5作品)

「環境を 保つのではなく 育てよう」 草野中学校 3年 古市 郁哉

「大作戦 地球を守ろう ゴミダイエット」 磐崎中学校 1年 鈴木 優輔

「青い海 緑の自然は いわきの宝」 草野中学校 3年 坂本 菜月

「比べよう 大事な地球と 便利な暮らし」 藤間中学校 1年 阿部 花音

「リサイクル 繋がる思い 連鎖する」 草野中学校 3年 草野 穂楓

【報告】 平成30年度第2回幹事会 開催報告

平成30年12月22日(土)15時より、いわき労働福祉会館・会議室2において今年度第2回目の幹事会が開催されました。当日の出席者は、役員・事務局員合わせて12名でした。佐藤烈事務局次長の進行で始まり、まず諸橋会長より今年一年の会の活動を振り返っての挨拶がありました。続いての議事では、和田佳代子副会長が議長に選出され、事務局から今年度の事業中間報告および会計中間報告がなされました。特に、今年度の大きな事業として行われた30周年記念事業の詳細についても報告があり、それを受けて今後の事業の進め方や会誌EQUALの次号の特集テーマ等について、幹事の方々からご意見をいただきました。幹事会は16時10分に終了しました。



【報告】 「いわき自然エネルギー研究会」の動き (第24報)

【1】 田人ほっこり祭への参加

11月18日(日)、「田人ほっこり祭」が田人支所周辺を会場に開催されました。当会としては、初めての参加で、田人在住の蛭田弘幸さん(当会会員)の勧めもあり、田人いちご園の敷地内で、側溝を利用しての廻り水車や雨樋を使っての廻り水車の実演をしました。予め11月15日に現地で大型水車の製作、調整をしておいた事もあり、当日の開会式の9時前には準備は完了しました。側溝と大型水車があるイチゴ園がメイン会場から少し離れているため、お客さんがなかなか集まりませんでした。ようやく1歳半の子供と連れのお祖母ちゃんが来てくれて、暫く遊んでいたもので、安心しました。その後お昼にかけて、呼び込みが功を奏して、続々と集まり、最終的に集まったお客さんは約200名に達しました。30cm幅の側溝を廻る大型水車を見て多くの人が驚いていました。当研究室でも初めての試みであり、田人のようにきれいな水が流れている場所でないと思えない教材であることを強調しました。雨樋を使った小型廻り水車は、子供たちに人気があり、自分でスタート位置において、廻る水車を見上げて楽しんでいました。子どもばかりでなく、大人も不思議そうな顔をして、動かして楽しんでいました。また来年も増強した内容で参加する予定です。



【2】第7回こども♡あいネットフェアに出展

12月5日（土）、いわき芸術文化交流館アリオス2階ホールで、子育て支援を目的に第7回こども♡あいネットフェアが開催されました。出展した団体は、子育てポピークラブ以下21団体で、スタッフ数は67名と大規模なフェアでした。いわき環境研究室からは橋本、中西、和田隆、和田佳代子、柳田、平川の6名が参加しました。

12時15分に草野会長のあいさつでオープニングが始まりました。次いでいわき市子どもみらい部長が市長代理で挨拶しました。

開場すると同時に子ども連れのお客さんがたくさん入場し、環境研究室のブースにも多く集まりました。今回は浮沈子と針金アメンボを目玉商品としました。他には風に向かって進む風車、廻り水車、風船推進車を展示し、体験してもらいました。会場では水が使えなかったのが残念です。58個の浮沈子を子ども達に配布することができました。会場全体の入場者数は昨年より少し少ない160名でしたが、来場した子どもの殆どに渡すことができました。浮沈子が上がったたり、沈んだりする実演を見て「すごい。どうして？」と驚いてくれる子供をみて勇気付けられました。やはり環境研究室は感動を与える団体でいたいと再認識した次第です。



【報告】 ◇◇◇NPO法人いわき環境研究室からの報告◇◇◇

(平成30年1月1日～12月31日)

【1】平四小の自然エネルギー学習支援講座

(第1回目は、10月1日に実施、前号で報告済み)

◆第2回目(11月5日)～「自然界にある空気・水の力を体験的に学ぼう」を主なテーマとし、諏訪神社境内と学内の2箇所での学習でした。6年生72名(3クラス)の児童全員が全てのコーナーを体験できるよう配慮したこともあり、13名の支援体制で臨みました。

○諏訪神社境内での学習(①学習用自然エネ設備(水車・風力・太陽光発電)説明、②足漕ぎ自転車による発電・各種自然エネルギーグッズ)の体験、③火おこし体験)。



○学内での学習(①吸盤フック体験(右写真、吸盤フックにぶら下がる児童と板を持ち上げる児童達)、②サイフォンに係る体験、③浮沈子の製作と体験)児童は様々な空気・水の力を体験できたこと。また火おこし体験等は、強く印象に残ったようでした。





◆第3回目（11月12日）～ 今回は、傾斜を付けた雨樋を流れる水流を遡る水車（＝「遡り水車」）の製作に挑戦してもらいました。グループ毎に羽の数や軸の太さなど様々な組み合わせで、水車の製作に取り組んでいました。何回か試走させ、工夫を凝らしている姿が印象的でした。



クラス毎、水車の軸と羽根数毎に、遡る時間を競い合いました。中には、主催者の方で想定していなかったような羽根の形を工夫し、良いタイムを出したチームもあり、子供たちの豊かな発想力に頼もしさを感じました。各軸及び羽根の優勝チーム代表者から壇上に登場し、工夫したことなどを話してもらいました。



【2】いわき海星高校支援講座

既に同校に対しては、4回の支援講座の内容を紹介しました。本報では、その後の2回の講座内容を報告します。

まず海洋学科2年生を2班に分けて、10月16日に神白海岸で採取した鳴き砂を班ごとに分析しました。鳴き砂と鳴かない砂を500ccペットボトルに100gずつ入れました。その中に300ccの浄化水を入れて、よく振った後で上澄み液を抽出して、水質分析をしました。その結果をダイアグラムに示しましたが、COD、透視度、粒度組成、導電率ともに鳴き砂と鳴かない砂との差が明らかになりました。比較することによって、鳴き砂をよく知ることができました。



後半は中西先生が自然エネルギー基礎知識について講演しました。地球温暖化問題、原発事故などにより、今後自然エネルギーの重要性が増すことを説明しました。その後で太陽光、風力、水力発電の教材を用いて体験学習を行いました。



◆第6回目 (11月13日) ～ 今年度最後のいわき海星高校環境教育支援を行いました。12時20分に授業が始まり、中西先生よりパワーポイントで「水車実験でエネルギーを学ぶ」により、エネルギーの説明がありました。次に生徒を2班に分けて、班ごとに羽根の枚数6枚と8枚2台の水車を製作しました。最初からプラ板から作るのでは時間が足りないので、部品を環境研究室で作製、各部品の組み立てを生徒に任せました。水車の中心に心棒を入れて、完成しました。製作した水車を用いて、2Lの水でどれだけの距離を移動できるかを実験しました。全員熱心に取り組んでいましたが、羽根に受け皿を付けて効率を高めたため移動距離が飛躍的に伸びました。平板羽根と桁形羽根で特性の違いがあり、それが混合されたため、実験が予想した結果とは異なりました。最後に和田隆さんから神白川の詳細な水質調査結果が報告されました。生徒の皆さんは熱心に聞いていました。

(関係写真は次ページに掲載)



【会員の動きから】 一当会の会員がそれぞれの分野で活躍しています。

該当会員	時期・場所	主催所管	内 容
原田正光 平川英人 佐藤 烈	H30.11.14 いわき市役所	いわき市 環境企画課	いわき市環境審議会が開催され、いわき市環境基本計画（第二次）の年次報告について審議しました。
諸橋健一	H30.11.19 いわき市役所	いわき市 総合政策部	いわき市総合計画審議会 委員委嘱状交付式・第1回審議会がありました。

**【事務局から】 平成30年度 11月～12月 事務局連絡会議報告
& 事務局連絡会議への参加のお誘い**

会の活動の活性化に向けて、事務局連絡会議の内容のダイジェスト版を会員の皆様にお伝えしています。今回は、11月と12月の事務局会議の内容です。

○11月事務局連絡会議

日時：平成30年11月5日（月）18：30～19：35

会場：福島高専専攻科棟1階 多目的講義室、出席者：9名

議事内容：

・報告事項

- (1) 事務局関係（会員の動向，ホームページの更新状況・アクセス状況）
- (2) 事業・プロジェクト関係（10月の活動内容報告）
 - ① 創立30周年記念本「いわきの環境科学遺産ーいわき地域の環境・魅力再発見ー」
発刊報告
 - ② 創立30周年記念講演会開催報告
 - ③ 第15回いわき子ども環境賞コンクール最終審査実施，受賞作品決定報告
- (3) 編集委員会関係（会報「ふいーるど」131号の発送準備）
- (4) 会員個人の活動状況（各種会議への参加報告）
- (5) 関連団体の活動状況（いわき環境研究室，いわき自然エネルギー研究会から）

・協議事項

- (1) 30周年記念事業について
 - ① 記念植樹について
 - ② 経費執行状況について
- (2) 第22回子供環境研究発表会について（準備スケジュール，当日の役割分担）
- (3) 第15回いわき子ども環境賞コンクールについて
（表彰式のスケジュール，役割分担）
- (4) 第30回発表会について（日程の確認）

○12月事務局連絡会議

日時：平成30年12月3日（月）18：30～19：40

会場：福島高専専攻科棟1階 多目的講義室、出席者：9名

議事内容：

・報告事項

- (1) 事務局関係（会員の動向，ホームページの更新状況・アクセス状況）
- (2) 事業・プロジェクト関係（11月の活動内容報告）
 - ① 第22回子供環境研究発表会実施報告
 - ② 第15回いわき子ども環境賞コンクール表彰式実施報告
 - ③ 創立30周年記念植樹実施報告
- (3) 会員個人の活動状況（各種会議への参加報告）
- (4) 関連団体の活動状況（いわき環境研究室，いわき自然エネルギー研究会から）

・協議事項

- (1) 30周年記念事業について（経費執行状況の確認）
- (2) 平成30年度第2回幹事会について（当日の役割分担，協議資料の確認）
- (3) 会報「ふいーど」132号の編集について
- (4) 第30回発表会に向けての準備（当日までの各種日程内容の確認）

* いわき地域環境科学学会事務局では，原則毎月第1月曜日の18時30分から20時50分（それよりも早く終わることもあります）に福島高専にて事務局連絡会議を開催しています。会の活動の状況を詳しく知ることもできますし，各自が考えていることを会の活動に反映させることも可能です。事務局連絡会議に関心のある方・一度出席してみようという方は，事務局担当の山田までご一報ください。皆様のご参加をお待ちしております。

次回の事務局連絡会議は，1月7日（月）18時30分からとなっております。

〈事務局担当〉福島高専 電気電子システム工学科
山田 貴浩

電話：0246-46-0800、FAX：0246-46-0807(学科共用)

電子メール：yamada@fukushima-nct.ac.jp

2019. 1.1. No.132

発行：いわき地域環境科学学会
福島工業高等専門学校
地域環境テクノセンター内
〒970-8034

いわき市平上荒川字長尾30

TEL. 0246 (46) 0837

FAX. 0246 (46) 0843

E-mail : mail@essid.org